

カミネッコンを使用した植樹における野生鳥獣被害の現状及び防除の有効性

留萌南部森林管理署 平野 愛梨
加藤 琉誠

取組の背景・目的

当署では、森林教室等で毎年カミネッコンを使用した植樹を行っていますが、植樹後に野生鳥獣によって荒らされる被害が発生しています。現在は防護柵を設置していますが、資材や労力、設置技術を要し、またカミネッコンの「植樹後に手入れがいらず、環境にやさしい」という点を活かしていきれていないことから、森林教室等で取り入れられるような、より容易で適した防除方法を模索する必要があると考えます。

そこで今回は、カミネッコンの野生鳥獣被害を緩和することを目的として「①被害を及ぼす野生鳥獣の特定」及び「②防護柵以外の野生鳥獣被害防除の有効性の検証及び適用性の評価」を実施しました。



カミネッコン設置直後(左)と被害状況(約1週間後)(右)

現状の防護柵(左)と設置不良により荒らされた防護柵(右)

取組の内容・検証結果

1. 被害を及ぼす野生鳥獣の特定

7月31日から8月14日の15日間、カミネッコンを設置し被害の有無を確認したところ、キツネ、タヌキ及びアライグマによる接触が確認でき、また2個のカミネッコンにタヌキによる被害が確認できました。

2. 防護柵以外の野生鳥獣被害防除の有効性の検証及び適用性の評価

防除の検証は「①深く掘削した穴に設置、②水を含ませることによる重量の増加、③忌避剤の使用」の3つの方法から行いました。結果は以下の表のとおりとなり(表上3段)被害数は「③忌避剤の使用」が1番少ない結果となりました。

また、現在設置している防護柵による防除と、今回検証を行った3つの防除を「防除効果、コスト、難易度」の複数の観点から評価しました(表下4段)。

①は低いコストで防除効果がある程度得られた一方、穴の掘削に労力を要しました。②は資材等の準備が容易だった一方、防除効果が得られませんでした。③は、コストが①及び②と比較するとかかりましたが、防除効果が高く、加えて忌避剤の設置は置くだけで容易なため、森林教室内で取り入れることも可能と考えられました。そのため、防除効果や難易度、森林環境教育への取入等を総合的に評価した結果、森林教室等における最適な野生鳥獣被害防除は「③忌避剤の使用」という結果になりました。

	①深く掘削した穴に設置	②水を含ませることによる重量の増加	③忌避剤の使用	防護柵(従来)
調査期間	9/4～9/18(15日間)	9/4～9/18(15日間)	10/1～10/15(15日間)	
調査結果(被害数)	破損及び苗木亡失(1)	破損(3)	移動(1)	
鳥獣種	キツネ	キツネ	タヌキ	
防除効果	中	低	高	高
コスト	低	低	中	中
難易度(労力等)	中	低	低	高
評価結果	—	—	最適	—

今後の展開

安全かつ容易に実施できる防除方法が確立できれば、森林教室内で野生鳥獣被害対策等も交えながら実施することができ、クオリティの高い内容になると考えられます。今回の結果を踏まえ、今後も長期間の調査の実施や新たな防除方法の模索を継続していこうと考えています。